

保守勢力の大同団結で強い日本を

自由国民新聞

JIYU-KOKUMIN SHINBUN

2022 (令和4) 年
5月20日
第10号

発行所: 自由国民連合
〒103-0014
東京都中央区日本橋蛸殻町
2-15-9-901
TEL: 03-6661-2525
FAX: 03-6661-7829

定価 1部500円

保守連合会議 (仮称) 設立準備大会

今、ひとつになる時

一般社団法人自由国民連合 (自国連) は4月29日、東京都内の公会堂で、設立一周年記念行事として『和』と『まこと』の日本精神で世界の紛争を「掃しよう」「保守勢力の大同団結で強い日本をつくらう」をスローガンに保守連合会議 (仮称) 設立準備大会 (主催: 自由国民連合) をコロナ禍の中、関係者約1000人を集めて行った。大会には、衆議院議員で自民党総裁補佐の国場幸之助氏から祝電が寄せられた。



祝辞を述べる加瀬英明氏

大会は、ロシアのウクライナ侵攻で犠牲となった軍人、市民に対して黙とうが始まった。二期会ソプラノ歌手の森敬恵氏による国歌独唱の後、自国連の水間石浜事務局長が一年間の経過報告をし、その中で自国連が政治団体から一般社団法人に移行した経緯および保守連合会議の年内発足に向けた概要と活動方針を説明した。

関係者の代表として外交評論家の加瀬英明氏が祝辞を述べた。同氏は、「保守勢力の団結は壁が厚い」と指摘。「保守の大同団結には、信念とか政策と全く関係のない政治家の派閥を一扫し、日本の政治体質を変える必要がある、理性に基づく信念を持った人が政治を扱っていくかねばならない」とし、自国連の活動に期待した。

また同氏は、「日本国民の一番の敵は、中国でも北朝鮮でもない。日本国憲法であり、私たちの胸の中に在る」と語り、日本国民に一番脅威をあたえている憲法の改正の必要性を強調した。

拓殖大学国際日本文化研究所客員教授のペマ・ギャルボ氏は、ロシアのウクライナ侵攻の現実に加え、「70年前に中国共産党は、平



ペマ・ギャルボ氏



阿部正寿会長

和愛好家の多かった独立国家のチベットを侵略し、現在に至っている。いまも子供たちに中国語学習を強制しているほか、中国に反対

する焼身自殺が発生している」とチベットの現状を報告。「平和を唱えるだけでは平和はやってこない。我々は戦わなければならない。そのためには仲間を増やすことだ」と述べ、アジアの仲間たちとの保守連合会議の設立に期待した。

さらに、神職で神道神祇本廳代表理事の奈良泰秀氏が壇上に立ち、「和」と「まこと」の日本精神の源流について「1万年以上前の縄文時代の日本の心性こそ、皆が助け合って生きてきた時代」とし、「縄文時代の心性を復興して、現在病んでいる日本精神を立て直すのも自国連、保守連合会議の使命である」として保守連合会議への参加を表明した。

最後に、世界戦略総合研究所副会長の加藤幸彦氏による万歳三唱で締めくくった。



記念撮影

尊皇愛国・反共救国・保守団結・国際連帯——自由国民連合

- 今年度の活動方針を決定 理事会、局長会議
- 自由国民連合は4月29日の一周年記念を前にして、局長会議、理事会を開催、今年度の具体的な活動計画を練り上げ、活動方針を決議、承認した。
- 保守団体の結集を図る
- 7月の参議院選挙で応援する候補を決める
- 全国で講演会を開催する
- ホームページ、フェイスブックの立ち上げ、月刊誌の発行など広報活動の充実化を図る

廃藩置県、祖国復帰は正しい道

祖国復帰の日 琉球国王尚家23代当主が臨席 前夜祭

政府と沖縄県による「沖縄復帰50周年記念式典」が5月15日、天皇皇后陛下のオンラインご臨席の元、同県且野湾市と東京で同時開催され、沖縄県の次の50年に向けた新たな出発の節目となった。同時に、前日の14日、琉球国王尚家当主が臨席した「尚家と祝う沖縄県祖国復帰50周年『祖国復帰の日前夜祭』」(主催・沖縄県祖国復帰記念大会実行委員会)が那覇市内の会場で約300人集めて行われた。尚家当主が公的な場に姿を現すのは初めてで、当主は「日本帰属は正しい道」「祖国復帰は悲願である」と発言、廃藩置県と祖国復帰が尚家と県民の願いであることを明らかにした。同大会は、自由国民連合の友好団体である一般社団法人日本沖縄政策研究フォーラム(代表・仲村寛)の協力のもと実施された。



前夜祭で挨拶する琉球国王23代当主尚衛氏

挨拶に立った尚家23代当主の尚衛(まもる)氏(73歳、三重県在住)は、「当主として挨拶するのはこれがはじめてのこと、大変うれしく思っております」の語り、前例を廃して沖縄県祖国復帰50周年を祝う場に尚家当主として初めて公の場に姿をあらわすことができたことに感謝した。

尚氏は、琉球国が日本に帰属する廃藩置県(1879年、明治12年3月)に言及、「大きな決断をされたのは、第二尚氏19代の尚泰王です。琉球がこれから存続していくには、日本に帰属するのが正しい道だ」と決断された」の語り、当時の琉球国王が自らの決断で廃藩置県を受け入れたことを明らかにした。

尚氏は沖縄県本土復帰について「米軍統治下において、祖国日本への復帰は百万県民の悲願であり、多くの県民の運動の積み重ねが日米両政府を動かした。わずか27年で祖国日本への復帰が実現されたのです」「県民の熱い情熱により選び取った歴史です」と語り、復帰の意義と尽力した先人たちに深い謝意を示した。

日本精神・歴史訪ね御柱祭見学

中部ブロック三島支部

自由国民連合(自国連)の中部ブロック静岡県三島支部の会員は5月14日、7年に一度、天下の大祭と言われる諏訪大社御柱祭の見学ツアーを実施しました。参加者は25名で、東京から6名が前日から三島支部会員の家に民泊をして、早朝6時40分より大型バスに乗車し三島市を出発しました。

バスは往路では、日本の歴史文化に詳しい軽野史仁先生を講師に迎えて、諏訪大社の概要や諏訪信仰と諏訪の歴史を縄文時代から平安、鎌倉、戦国時代まで講演を拝聴して最初



二部で陸上自衛隊第15音楽隊と共に沖縄の音楽を楽しんだ

尚家と沖縄について尚氏は「廃藩置県後、尚家は沖縄を離れて生活してきましたが、尚家の魂は

自由国民連合(自国連)の中部ブロック静岡県三島支部の会員は5月14日、7年に一度、天下の大祭と言われる諏訪大社御柱祭の見学ツアーを実施しました。



沖繩

思いを披露した。今後の沖縄について「現在の琉球文化、沖縄文化の発展と継承が必要」とし、一般社団法人琉球歴史文化継承振興会を設立した意義にふれ、「琉球文化の継承が日本の発展につながる」との認識を示した。

ただ、「琉球文化や沖縄方言を学ぶことで日本との対立を煽るような動きが時々見える。私たちの願いとは対極にあり悲しい」と語り、琉球文化振興が日本と沖縄との分断に利用されることを懸念した。最後に、祖国復帰50周年を新たな出発点とし「皆さまと共に正しい琉球歴史文化を継承発展させ、明るく豊かで平和な沖縄を築きたい」と呼びかけた。

改憲の声は 沖繩から

沖繩支部

自由国民連合沖繩支部の友好団体である自主憲法制定沖繩県民会

議(会長・西田健次郎)主催の「新しい憲法をつくる沖繩県民の集い」が5月3日、那覇市で開かれ、約100人が参加した。参加者は本土復帰50年の節目の今年、沖縄から改憲の機運を高めようと氣勢を上げた。



集いでは、激動の国際時代にあつて国民の生命と財産を守り、国の歴史と文化にふさわしい憲法を作るべきだとする大会決議を全会一致で採択した。集いの様子は配信中継された。

集いでは沖繩選出の国場幸之助衆院議員と宮崎政久衆院議員が講演。国場氏は「岸田文雄政権が充足して以降、世論調査で改憲を支持する国民が過半数を超えた今が憲法改正の最大のチャンス」と述べた。その上で、「国民を守る規定となる緊急事態条項がないことはおかしい」として、自民党が提案している9条への「自衛隊の明記」と「緊急事態対応」条項追加の必要性を強調するとともに、自民党の党是である改憲手続きに意欲を示した。宮崎氏は「国民主権の原則から、沖縄が復帰した昭和47年5月15日に憲法確認の手続きを取るべきだった。だからこそ、沖縄から憲法改正の声を上げるべきだ」と訴えた。

時事問題を定期的に議論

内外情勢認識会議

自由国民連合では4月から、各局長、関係者が毎週定期的集い、最新の時事問題について議論する「内外情勢認識会議」を行っています。これは、現在浮かび上がっている国内外の情勢を自国連としてどのように考えるかをスタッフが関係資料を提出し、意見を出し合って議論する場で、状況に応じて、これを元にしてテーマごとに公式見解をまとめていくものです。

これまでに、憲法改正、参院選への対応、核シェアリング、国連、ロシアのウクライナ侵攻、次の小冊子の内容などについて議論してきました。内外情勢はますます複雑化し時々刻々変化しており、私達は真摯に混ざり合う膨大な情報の渦に巻き込まれて混沌としがちです。このため、自国連は幅広い情報・意見を元にながら、尊皇愛国、反共救国、保守団結、国際連帯の基本理念に基づいて、ぶれない視点から日本の行くべき方向性を提示したいと考えております。

自国連の支部長以上の方は参加することができますので、詳細についてのお問合せや参加ご希望の件などは事務局までご連絡ください。